■鹿島テクニカルセンター合同研修会アンケート　　2026 年 9 月 18 日

□S 造・階段エリア

現場に行く機会がなかったため、普段から見ている図面からは想像ができないほどの大きさで驚きました。図面上では、工事中に必要な手摺や、安全に作業するための仮設ステージなどの細かな鋼管であったり、仮設されるものを想像しながら作図したことはなかったので、今回の研修を通して、現場での手順や必要なものなど詳しく知れたのでとても良い勉強になりました。

S 造の階段では、鉄骨の部材だけでなく、階段を取り付ける際の細かい部分まで確認することができました。図面では線や寸法で表されている部分も、実際には部材同士を組み合わせながら施工されていることが分かりました。普段図面を作成するときも、完成した状態だけでなく、どのように組み立てられるのかを考える必要があると感じました。

□RC 造・EV エリア

今回の研修で PC 部材を初めて見ることができて、品質の向上や工期の短縮など優れた部材であることを知った。型枠は関東と関西で使用しているパイプや施工方法に違いがあることも知ることができました。セパレーター割の検討は、コンクリートの打設時の圧力や施工性を考慮しながら配置する重要性を感じました。

RC 造では、コンクリートを施工する前の状態を見ることができ、普段完成した建物からは確認できない部分について知ることができました。特に、型枠の内側やセパレーターなど、コンクリートを打設するために必要な部材がどのように使われているのかが分かりました。PC 部材についても実物を見ることができ、図面上の部材を実際の大きさで確認できたことが印象に残りました。

□外装・屋上エリア

自分が知っている ALC は「軽量気泡コンクリート」ということしか知らなかったが、実際内部には鉄筋マット、メタルラスなどで構成されていることを知ることができました。また、貼り方も様々で、縦貼り、横貼りがあった。横貼りには、厚さによって連続に貼れる枚数などが決まっていました。

屋上エリアでは、現在扱っている業務に重なる部分があり、設備基礎の大きさや配置イメージを持つことができました。

外装では、ALC や ECP の実物を確認し、外壁材の種類によって見た目だけでなく、取付方法や納まりにも違いがあることを知りました。また、ALC のパネルを取り付ける際には、縦方向や横方向など施工する向きによって考えることが変わることも分かりました。屋上では、設備基礎の位置や大きさを実際に見ることができ、現在の業務で扱っている図面とのつながりを感じました。

□内装エリア

機械室は普段人が入ることが中々ない場所であるため、壁面は吹付け断熱で仕上げられていました。また、防音としてグラスウールボードを使用していました。湿気に弱いため床から浮かせて設置されていました。普段は完成後の仕上げしか目にすることができないため、施工途中の状況を確認できたので理解が深まりました。

内装では、仕上げ材の下にある下地や、設備と壁との取り合いなどを確認することができました。普段の業務では完成した状態を想像して図面を見ることが多いですが、実際の施工途中を見ることで、仕上げの前にどのような作業が必要なのかを理解することができました。目に見える仕上げだけでなく、その下にある部分についても意識して図面を見るようにしたいです。

□全体

今回の研修会では、図面や資料だけではわからない施工方法や、納まりを実際に確認することができました。特には、完成後には見えなくなる部分の施工状況や、安全性・施工性を考慮した工夫を学ぶことができ、設計業務との繋がりについて理解を深めることができました。

普段の業務では確認する機会の少ない施工中の状態を見ることができました。実際の現場では、図面に書かれている内容をそのまま施工するだけではなく、部材の位置や他の部分との関係を確認しながら進めていることが分かりました。これからは図面を見るときに、実際に現場でどのように施工されるのかも考えながら業務に取り組みたいです。

□その他感想や要望等自由記入

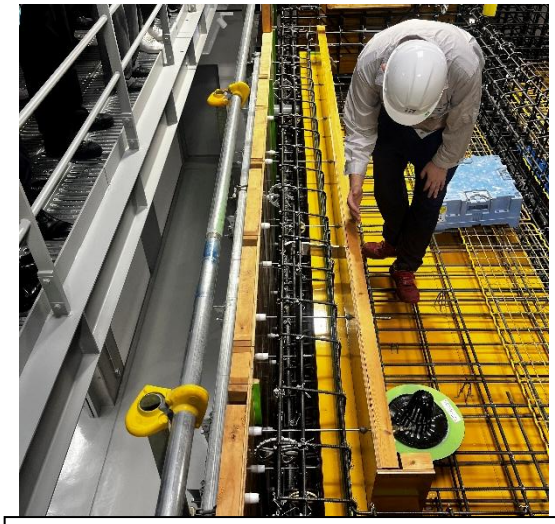
実物を見ることで部材の大きさや施工方法を具体的にイメージできたため、今後の業務でも学んだ内容を活かしていきたいと思います。

普段は図面を中心に業務を行っているため、実際の現場で部材や施工の様子を見ることができ、とても参考になりました。実物を見ることで、図面だけでは分かりにくかった部分も理解しやすくなりました。今後も機会があれば現場で実際の施工を確認し、普段の図面作成や確認に活かしていきたいです。
この度は研修の機会を設けていただき誠にありがとうございました。

■写真（コメント等自由記載）



現在の業務とも重なる部分であったので、理解が深まりました。



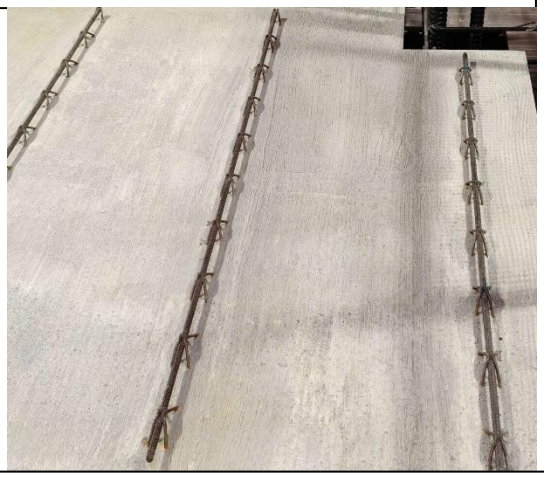
練習としてバルコニーの図面をよく書いていたので、打設前の型枠の状態から見ることができてとても勉強になりました。



今回初めて CFT 造を見ることができ、耐震性能や耐火性能に優れている・工期の短縮にもつながることを知れました。



普段見えない部分が打設前はこのような形では め込まれ､計画されているのだなと思いました。



床は完成すると平らに見えるが、その精度を確保するために事前の調整が行われているのだと思いました。



サッシ周りの目地は見た目を整えるためだけでなく、異なる部材同士を納めるためにも必要なのだと思いました。